

IV 平成 27 年度の主要な事業動向

1 来館者サービスの状況

(1) 入館者、貸出、レファレンスサービス等の状況

27 年度の総入館者数は 602,615 人で、前年度に比べ 0.3%減少した。1 日平均の入館者数は 2,114 人となる。減少幅は少なかったが、21 年度から 6 年連続で減少している。

26 年 4 月から開始した郵便による利用カード発行には、447 名(前年度 400 名)の申込みがあった。

資料の個人貸出点数(図書、A V 資料)は、532,814 冊・点で前年度より 2.3%増加し、1 日平均でも 1,870 冊・点と前年度より 1.3%の増加である。貸出が増加したのは平成 21 年度以来 6 年振りである。このうち A V 資料の貸出 86,921 点は前年度比 8.1%増であり、図書資料の貸出増加率 1.3%を上まわる伸びであった。

レファレンス件数は 35,656 件で昨年度 37,733 件から 5.5%減となった。

貸出中資料の予約は 30,345 件で、前年度より 2.2%増加した。このうち利用者自身によるオンライン予約は 21,391 件で、前年度より 3.2%増加し、予約件数全体の約 7 割を占めている。

(2) 児童に対するサービス

児童図書の貸出冊数は、前年度より 1.3%増の 87,541 冊であった。

子どもの読書活動に関わる方々への情報提供サービスとして、読書支援のための参考図書リスト「子どもと本をつなぐ人たちへのブックリスト」3 種類を 3 月に発行した。このほかに新着図書を紹介する『新しく入った本』(月刊)、おすすめ本を紹介する『じどうとしょしつだより えほん』『児童図書室だより ものがたり・ちしきの本』(季刊)、おはなし会で読んだ本の中からおすすめ本を紹介する『おはなし会でよんだ本』(季刊)を発行した。

テーマ展示では、「タイムトラベル ニッポン～江戸から現代まで～」「ファール没後 100 年 昆虫の世界」「食べ物&料理の本」など 2 か月ごとにテーマを変えて関連図書の展示と貸出を行った。

おはなし会は、午前を幼児向け、午後を小学生向けとして、年間 22 日 44 回行った。このうち 7 月 5 日と 12 月 19 日の午後には「大人も楽しめるおはなし会」を行った。また、これとは別に 8 月 4 日、5 日及び 12 月 25 日にはおたのしみ会を行った。

(3) 障害者に対するサービス

27 年度に作成した録音図書 D A I S Y (デイジー) の数は 66 タイトルで、そのうち既蔵テープからデータ変換したものは 35 タイトルであった。

視覚障害者への対面朗読は、利用者数が延べ 258 人(前年度比 88.1%)、対応した朗読者数が延べ 170 人(同 77.6%)、朗読時間数が 411 時間 30 分(同 98.3%)であった。

視覚障害者資料の貸出数は、自館資料は 790 タイトル(同 68.7%)と減少し、他施設の資料を提供した数はダウンロード 347 タイトルを含め 4,307 タイトル(同 90.6%)あった。また、自館資料の他施設への貸出も 759 タイトル(同 127.1%)あった。更に、当館が加入している視覚障害者等への情報提供ネットワークシステム「サピエ」には、点字・録音図書の施設間相互貸借のための書誌データベースのほか、一種の電子図書館の機能もあることから、利用者個人の直接利用もサポートしており、27 年度は新たに 9 人が登録した。

心身障害者への郵送貸出の数は、742 点(同 95.3%)であった。

(4) 各コーナーの状況

ア 地域資料

愛知県の人・事物について書かれた資料、県内行政刊行物、その他愛知県に関する資料を幅広く収集している。27 年度末現在、地域資料として開架に 36,559 冊、閉架も含めると図書 75,349 冊、雑誌 1,325 タイトルを所蔵している。27 年度にはホームページ内に「愛知県関係地域資料ポータル」を新設した。

イ ティーンズ

ティーンズコーナーでは、利用者からおすすめ本のPOPを募集する企画「てこぼん」で、投票により優秀作を選ぶ「第4回てこぼん大賞」を7月から9月にかけて実施した。

ウ 多文化サービス

18年3月に本格運用を開始した多文化サービスコーナーには、中国語、韓国・朝鮮語、ポルトガル語の図書を備えており、27年度末の蔵書は約5,000冊で、特に文学や日本語学習用の図書など安定した利用が続いている。

エ ビジネス情報

27年度は、「食に関する職業・資格の本」「起業を応援します！」の2つの展示を開催した。「起業を応援します！」は日本政策金融公庫との共催で行い、展示会場では県産業労働部並びに農林水産部作成の起業関係のチラシも配付した。関連行事として、日本政策金融公庫主催の創業支援セミナーを開催した。また、28年2月にビジネス情報コーナーホームページを更新し、CSR報告書のリストを新たに追加した。

2 図書館サポーター

27年度に「おはなし会サポーター」として登録された方は14名で、毎月第1日曜日と第3土曜日に絵本の読み聞かせや紙芝居、ストーリーテリングなどの実演を行った。また、企画展示「昭和を訪ねて」の関連企画として9月13日に行った「昭和の文学作品を味わう～おとなのためのお話し会～」でも同様に実演を行った。

破損・汚損した図書の補修を行う「資料補修サポーター」には、2名の方が登録された。補修作業の習熟度により、できる範囲での補修作業にあたった。

3 図書館内の催し物

図書館を知ってもらう活動として、企画展示・講演会等の開催に意欲的に取り組んだ。詳細はP.8「実施事業一覧」のとおり。

4 研修の受入

小中高生の見学や体験学習を始め、司書課程の学生の実習など、24件386人を受け入れた。

5 市町村立図書館等を介したサービスの状況

(1) 協力貸出、市町村立図書館間の相互貸借

27年度の県内図書館等への協力貸出数は、図書18,352冊（前年度比111.5%）、CDなどの録音資料1,930点（前年度比104.2%）の合計20,282冊・点であった。

県内市町村及び東海・北陸ブロック域内の各図書館同士の相互貸借図書のうち、愛知県図書館を経由して運ばれた数は、45,900冊（前年度比111.7%）であった。

27年7月、福井県立図書館と相互貸借の推進に関する協定を締結し定期搬送便の運行を開始した。これにより東海・北陸地区6県の搬送ネットワークが完成した。

(2) 遠隔地返却制度

愛知県図書館で借りた資料を地元の図書館で返却できる遠隔地返却制度は、24年度から本実施している。対象自治体は、東三河地区（豊橋市、豊川市、蒲郡市、新城市、田原市、設楽町、東栄町、豊根村）、西三河地区（岡崎市、碧南市、西尾市、高浜市、幸田町）、知多地区（半田市、常滑市、南知多町、美浜町、武豊町）の18市町村で、27年度の利用は2,871冊・点（前年度比116.8%）であった。

(3) 市町村立図書館への支援

ア あいちラストワン・プロジェクト

資料を県内の図書館が協同して保存していくための事業である。県内で1図書館のみが所蔵する資料を希少資料と定義し、資料が将来にわたって確実に保存され利用できるよう取り組むことになった。25年1月に試行を開始し、26年10月に「愛

知県内公立図書館等所蔵希少資料保存要綱」に基づき本実施に移行した。28 年 3 月末までに 42 市町村の 43 館と県図書館の計 44 館が参加し、27 年度には市町村立図書館において保存が困難とされた 855 冊の希少資料が愛知県図書館に移管された。

イ 研修講師派遣

市町村立図書館支援の一環として、職員を研修講師として派遣している。27 年度は、県内外で実施された図書館や団体が主催する研修会等へ 18 名（前年度 20 名）を講師として派遣した。また、市町村立図書館との情報交換のために延べ 31 名（同 27 名）の職員を派遣した。

6 県内公立図書館職員向け研修

27 年度は「愛知県図書館の基本的な運営方針」に掲げた「市町村立図書館等への支援」の一環として市町村立図書館の職員やそこで活動するボランティア等を対象とした 3 つの研修を愛知県公立図書館長協議会と共催で実施した。

(1) ヤングアダルトサービス研修会

テーマ「YA 世代を振り向かせる！～来て、見て、利用してもらうには」

日 時 平成 27 年 11 月 26 日 13:00-16:30

場 所 愛知県図書館大会議室

参加者 69 名

内 容

講 演 「イマドキのヤングアダルトと図書館」

同志社女子大学准教授 村木美紀氏

事例報告 「10 代への新たな形の読書支援～大阪市立中央図書館ヤングコーナーの実践」

大阪市立中央図書館 松岡章子氏

トークセッション 「ヤングアダルトサービスのヒントを探る」

(2) 障害者サービス研修会

日 時 平成 28 年 1 月 22 日 13:00-16:30

場 所 愛知県図書館大会議室

参加者 79 名

内 容

講義・実演 「マルチメディアデイジー等を活用した障害者への情報支援について」

(公財)日本障害者リハビリテーション協会情報センター長

野村美佐子氏

(3) 所蔵資料デジタル化研修会

日 時 平成 28 年 2 月 19 日 13:00-17:00

場 所 愛知県図書館大会議室

参加者 45 名

内 容

講 演 「資料デジタル化と利活用―地域資料のデジタルアーカイブ」

国立国会図書館関西館電子図書館課資料電子化係長

福田 亮氏

事例発表 ア「地域からの情報発信「デジタル岡山大百科」県民参加による電子図書館サービス」

岡山県立図書館企画・メディア班総括主任 山名真弘氏

イ「電子媒体を使った資料活用―図書館を飛び出した活用を目指して」

安城市中央図書館図書係 杉山正悟氏

7 資料の収集

(1) 図書

27年度は、合計 19,899 冊の図書を受け入れた。その内訳は、購入による受入が和書 14,668 冊、洋書 89 冊、計 14,757 冊。寄贈による受入が和書 4,855 冊、洋書 96 冊、計 4,951 冊。管理換えが 91 冊、貸出文庫用図書からの受入が 100 冊であった。

購入による受入は、18年度から21年度にかけての21,000冊程度から、その後は資料購入費の削減に伴って購入冊数が減少しており、27年度は14,757冊にまで減った。予算的に厳しい状況の中で、前年度に引き続き利用率の低いものなどは精選したが、市町村立図書館及び利用者ニーズに応えるため、専門性の高い資料、仕事や生活、生涯学習に役立つ資料、地域資料、本県産業の発展に役立つ資料については重点的に収集を行った。

(2) 新聞・雑誌

27年度は、新聞は103紙、雑誌は2,143タイトルを受け入れた。購入雑誌については技術系雑誌や専門誌の継続維持に努めた。地域の新聞として利用が多い『新愛知』の縮刷版を明治21年から大正12年まで受入をした。また、県内の市町村立図書館等から保存期間が過ぎた雑誌のうち、『世界』等のバックナンバーで本館の欠号分を補充収集した。

(3) A V 資料

27年度は映像資料ではDVD175点、録音資料ではCD301点を受け入れた。購入・寄贈の別では、購入298点、寄贈178点である。DVDについては、前年度に引き続き、劣化の進むビデオカセット及び旧蔵レーザーディスクの代替資料の購入を進めた。CDについては、幅広い分野から収集するとともに、劣化が進むカセットテープの代替資料の購入にも留意した。

8 インターネットを利用したサービスの状況

(1) アクセス状況

ホームページのトップページへのアクセス数は1,321,333回で前年度比95.7%と減少したのに対し、蔵書検索ページのアクセス数は1,387,149回で前年度比118.1%と増加している。このことはトップページを経ずに直接蔵書検索を行う利用者が増えていたことを示している。

横断検索「愛蔵くん」に参加している施設は、県図書館と県内市町村立の計49図書館、2公民館図書室、3専門図書館であるが、横断検索のアクセス数は604,659回（スマートフォン、携帯からの接続を除く）で前年度比99.2%であった。26年度はシステム更新の好影響で213.3%と倍増したが、27年度に至って利用が落ち着いたと言えよう。携帯サイトの総ページビューは56,079ページで前年度比96.2%と微減に留まったが、スマートフォンやタブレット端末の普及による減少傾向は継続している。

(2) 地域資料のデジタル化の推進

当館が所蔵する貴重な地域資料の電子画像は、「絵図の世界」「絵はがきコレクション」「貴重和本デジタルライブラリー」の3コレクションとしてホームページに掲載し、高精細画像で見ることができる。「貴重和本デジタルライブラリー」については、館内の横断的作業組織である貴重和本整備チームが引き続き書誌データの整備を進めており、27年度は28タイトル分の整備が完了し、計143タイトルを公開している。

(3) ナクソス・ミュージック・ライブラリー

26年4月から開始した音楽配信サービス「ナクソス・ミュージック・ライブラリー」の27年度の利用件数は総計23,292件（前年度比77.9%）であった。

9 電算システムの運用

(1) 第4期システム

26年3月に電算システムを更新し、第4期システムが稼動している。

館内インターネット用端末の利用は27年度は延べ22,368人(前年度比101.1%)であった。

(2) 国立国会図書館デジタル化資料送信サービスの提供開始

国立国会図書館デジタル化資料送信サービスは、国立国会図書館が所蔵する資料のうち著作権処理の済んだ資料をデジタル化して、「インターネット公開」、「公共・大学図書館内」、「国会図書館内」の3つのレベルで公開しているデータベースのオンラインサービスである。「公共・大学図書館内」レベルの資料データを当館の利用者に提供するため平成26年度中より準備を進め、平成27年5月にサービスの提供(閲覧・印刷)を開始した。

10 県内図書館の動向

28年4月1日現在の愛知県内の市町村は54、図書館設置市町村は48(38市9町1村)、未設置市町村は6(5町1村)、図書館設置率は88.8%である。県内で図書館業務に指定管理者制度を導入しているのは13館(施設管理のみ導入は愛知県図書館始め2館)で、昨年度からの変更はなかった。

11 県内図書館団体等の動向

(1) 愛知県公立図書館長協議会

ア ヤングアダルトサービス連絡会

愛知県図書館との共催でヤングアダルトサービス研修会を開催した。講師に村木美紀氏、松岡章子氏を迎え、「YA世代を振り向かせる!～来て、見て、利用してもらうには」と題し、講演、事例発表、トークセッションを行った。(P.4参照)

ヤングアダルト向けのブックガイド『ティーンのためのAichi Librarians'Choice A・L・C あるく』3号を作成し、愛知県図書館のホームページでも公開している。

イ 図書館ネットワーク研究会

「虫の世界へーファール没後100年」と「徳川家康ー没後400年にあたって」を共通テーマとしたイベント「@ (アット)ライブラリー」を行った。愛知県図書館のホームページに特設ページを設け、参加館のイベント情報を掲載した。ファールには36館、徳川家康には16館が参加した。

また、ホームページ内に県内公共図書館の施設・設備等を紹介するページ「愛知県内公立図書館一覧〈基本情報〉」を公開した。

ウ 研修会

第1回「本の世界の見せ方」講師：明定義人氏 (参加者：83人)

第2回「科学の本っておもしろい!-あそび・本・自然をつなげて-」

第3回「マルチメディアデイジー等を活用した障害者への情報支援について」

第4回 所蔵資料デジタル化研修会

※第2回は愛知図書館協会、第3回、第4回は愛知県図書館の基本的運営方針推進事業(P.4参照)との共催。

(2) 愛知図書館協会

愛知図書館協会では、原則として連続受講形式の研修を行っており、講義と演習の組み合わせを原則としている。27年度に実施した研修は次のとおりである。

・児童サービス研修：全4回の連続受講形式とステップアップ(ブックトーク)。

うち「科学の本っておもしろい!-あそび・本・自然をつなげて-」(講師：池上理恵氏)を拡大講座(愛知県公立図書館長協議会と共催)とした。(参加者：122人)

・レファレンスサービス研修：全3回の連続受講形式。

・スキルアップ研修：「図書館が“知のコンシェルジュ”となるために～「何でも

訊いてください！」と声を上げる勇気を持とう～」(講師：梅澤貴典氏)を拡大講座とした。(参加者：83人)

- ・資料保存研修：資料保存について実習と講義を組み合わせた研修。
- ・統計研修：愛知淑徳大学の協力を得て、講義と実習を組み合わせた2日間の研修。

12 大学図書館、学校図書館との連携

名古屋大学及び名古屋市立大学の図書館との間で運行している定期搬送便による公立図書館から大学図書館への貸出は688冊(前年度比159.3%)、大学図書館から公立図書館への貸出は243冊(同96.8%)であった。

また、東海地区図書館協議会の「資料相互利用協定」参加の大学図書館との間で411冊の資料を貸出し、58冊の資料を借り受けた。文献複写は受付、依頼ともに0件であった。

高等学校を中心に、学校図書館への支援サービスを引き続き実施した。高等学校及び特別支援学校への協力貸出数は6校1,068冊(前年度比187.7%)で、県教育委員会が実施した学校図書館活性化事業のモデル校となった3校への効果がみられたが、利用した学校は昨年度より半減した。

V 平成27年度来館者アンケート調査結果

愛知県図書館では、来館者の利用行動や評価、要望を知るため、17年度からアンケートを行っており、27年度は、11月8日(日)と10日(火)に1,300枚の用紙を配布し、858人の方から回答を得た。

詳細については、ホームページ「県図書館の発行物」(<https://websv.aichi-pref-library.jp/publish.html>)に掲載している。

○来館者について

年代では、20歳代以下の回答者の割合は、初めてアンケートを実施した平成17年度には36.7%であったが、その後少しずつ減少し、26年度は20.1%、今年度はさらに低下して16.5%となった。対して60歳以上の割合は、平成17年度は16.8%であったが、今年度は約2倍の36.5%で、回答者の2.8人に1人は60歳以上ということになる。職業別では、「お勤めの方」が43.5%で最も多いが、引き続き減少傾向である。対して「自営業」が3.8ポイント増加して12.7%となっている。学生の比率は17年度には29.1%であったが、24年度以降2割を下回るようになった。今年度は11.9%で、昨年度よりさらに4.7ポイント下がった。来館頻度は、「月数回」が39.0%で最も多く、次いで「週1回以上」が28.8%で「月1回」以上が83.1%を占めている。

実施日	11月8日(日)	11月10日(火)	計
配付数	600	700	1,300
回収数	377	481	858
回収率	62.8%	68.7%	66.0%
入館者数	2,122人	2,180人	4,302人

○サービスの重要度と満足度 *4段階評価(中心値は2.5)

例年、最も重要度が高い「本や雑誌などの量、種類」は3.48(昨年度3.46)と微増し、逆に、満足度は昨年3.11から3.10に微減し、この項目の重要度と満足度の差が広がった。「全体的な満足度」は3.22から3.23へわずかに上昇したが、要因は開館日、開館時間である。

○県図書館の充実・強化について

県図書館として充実・強化した方が良いと思われるものとして最も多くの方(61.2%)が選んだ回答は「資料の量や種類」であった。市町村立図書館支援の項目でも「幅広い資料の収集」(61.5%)が1番にあがっており、資料の提供に関する関心が高いといえる。